

「知事とみんなの愛顔でトーク」における意見・提言の県施策への反映事例

【29年度】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
29	中予地方局 (久万高原町)	障がい者災害時支援バンダナについて	障がい者災害時支援バンダナというのを越谷市がつくっている。バンダナの四隅にそれぞれ体が不自由、目が不自由など必要な支援が印字してあり、災害時などに、自分が必要なところを三角が背中に出るよう首から巻くだけで、どんな支援が必要なのかが分かる。愛媛県はイメージカラーもオレンジで目立つし、みきゃんを真ん中に、ぜひ県内でつくっていただきたい。布なので三角巾にもなるし、ちょっと肌寒いときには羽織れるし、かばんの中に入れても邪魔になるものではないので、検討いただけたらと思う。	障がい者災害時支援バンダナについて、県身体障害者団体連合会に作成を打診したところ、同会において30年度に取り組む方向で検討が進んでいる。(「三浦保」愛基金活用予定) その他、県では、市町との連携により、災害時に障がい者が必要な支援について意思表示するための「ヘルプカード」や、外見ではわかりにくい障がい者が支援や配慮を得られやすくする「ヘルプマーク」の配布を実施している。 【保健福祉部】
	中予地方局 (久万高原町)	子育てサロンのネットワークづくりについて	地域の子育てを少しでも応援しようと、小学生、乳幼児とその保護者を対象に毎月1回集会所で子育てサロンを運営している。現在は40歳代から60歳代の女性スタッフ五、六名で運営しているが、なかなか人材が育たず、また、人材不足もあり地域の要望はあっても実施回数を増やすことができない。 県への要望であるが、研修会や他の子育てサロンとの情報交換等のために、ネットワークづくりにご尽力をいただきたい。それによりスタッフの質の向上を図り、活動内容や運営をより充実させることができると思う。	要望を踏まえ、管内の市町や子育て支援団体等との意見交換や子育て支援グループへのアンケート調査を行った結果、グループ間の交流・情報交換は有意義との意見が多く寄せられた。このため、中予地方局管内において、グループのネットワーク化による人材育成や活動情報の発信を支援することを検討している。 【中予地方局】
	南予地方局 (内子町)	サイクリング振興等に向けた県道宇和野村線の規制緩和等について	西予野村地域でのマラソン大会やサイクリング文化の振興に努めているが、県道においては大会の標識の設置の禁止や、距離表示看板についても、審査が必要である。大会をさらに盛り上げ地域活性化していくよう、県道での交通の支障にならない範囲でののぼり旗の設置についての規制緩和を求めたい。	道路は一般交通に使用される施設であるため、県管理道路の占用については、占用許可基準に基づき、道路本来の目的を阻害しない範囲でのみ認めているところ。 のぼり旗については、信号機や道路標識の効用を妨げたり、道路交通の安全性を阻害する恐れがあることから、原則として道路占用を認めていなかったが、今回の意見をもとに再検討した結果、平成29年11月からは、公益性や安全の確保など一定の条件を満たす場合に、一時的な占用を認める取扱いとし、所管する西予土木事務所に相談していただくこととした。 【南予地方局】
	南予地方局 (内子町)	愛媛のヒノキのPR等について	この前の南予のいやし博で、仕事マルシェでカンナ削りをして欲しいとの依頼があり、大洲の朝もやで子どもたちと一緒にした。今後もどこかのイベントでそういった機会をつくっていただきたい。そうすることによってヒノキのPRにもなれば愛媛の山を守れる、地産地消にもつながり自然も守れる、地域の活性化にもつながっていきたく思っている。 また、愛媛でもう一度、「削ろう会(カンナを使ってどれだけ薄く削れるかというのを競う競技)」を開催したい。大工だけでなく、家づくりの模型を子どもたちと一緒につくったり、左官業の泥団子づくりであったり、家づくり全般を知ってもらうためのイベントにもなっており、愛媛県のPRもしたいと思っている。	事前に、県庁森林局及び八幡浜支局森林林業課並びに発言者と打ち合わせの結果、平成29年11月18日～19日に実施された「えひめ松山すごいもの博(産業祭)」に出展し、カンナ職人の技術を、県民に広くアピールすることができたところである。 なお「西予ヒノキ」の普及も兼ね、別途、地元西予市や八幡浜市の産業祭や、三瓶高校での文化祭に発言者を招くなどして、幅広くその活動のPRに努めているところである。 今後も、発言者をはじめとする、大工技術を含めた、県産木材「媛すぎ、媛ひのき」による家造り等を宣伝・広告して参りたい。 【南予地方局】
	南予地方局 (内子町)	伊方の観光・地域振興の新たなアイデアについて	伊方町のメロディーラインについて、以前知事から、「メロディーラインという名前が付いてるんだったら、1曲と言わずに3曲ぐらいやったらどうか、あそこは夕日や佐田岬の灯台の恩恵、豊後水道の魚、いろんな仕掛けができるんじゃないか。いろいろアイデアを考えてみたい」というふうなお話があった。ちょうど今年佐田岬灯台点灯百年の記念の年でもあるので、ぜひ、あらためて前向きな検討をお願いしたい。	「メロディ道路」の追加については、各関係機関との協議、及び、地元調整を行った結果、新たに2カ所を追加する運びとなり、工事を平成30年2月に実施し、3月8日に完成記念式を開催する予定となっている。 この取り組みが、今後、南予の観光振興、地域の活性化に繋がっていくことを期待している。 【施工箇所】 ①八幡浜市保内町宮内(三崎方面向き)：「瀬戸の花嫁」 ②伊方町三机(三崎方面向き)：「うみ(童謡)」 【南予地方局】
	中予地方局 (松山市)	中山栗等を全国で勝負できる特産物にする方法について	自然豊かな中山町には、中山栗をはじめとする全国でも戦えるような特産物があるが、現状では、発展させるためのスタートラインにも立てていないような気がする。全国で勝負するためには何を、どんなことが必要になるのか意見をいただきたい。	県では、中山栗等、特産物を活用した商品開発は、集客に有効と考えている。このため、商品化に必要な中山栗を長期に渡り安定的に供給するため、関係団体と連携して産地力の向上を図る方策を検討している。 また、伊予市でも、スマートインターチェンジ設置を地域活性化を図るチャンスと捉え、人を呼び込む目玉商品の必要性を認識しており、地元の方々と栗を活用したスイーツ等の開発を行う事業を検討しており、県としても市の取組みをバックアップしてまいりたい。 【中予地方局】

【28年度】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
28	東予地方局 (上島町)	サイクリング観光のための環境保全について	しまなみ海道沿線の自治会として、4月の島四国、7月の市民清掃、10月の秋祭り、これに合わせてボランティア活動で草刈りとゴミ拾いを実施しているが、 <u>高齢化で全域まで手が回らない</u> 。集落と集落の間あたりでは目に余るものがあり、 <u>地域では手に負えないので対応をお願いしたい</u> 。景観保全について配慮をお願いしたい。	サイクリングしまなみ2016の開催を控えた10月23日(日)に、サイクリストや県職員50名が参加して、しまなみ海道サイクリングロード自歩道部分(大島、伯方島、大三島の6カ所)を中心に清掃活動を実施した。今後も清掃活動の継続開催に向けて検討を行う。 【企画振興部】
	東予地方局 (上島町)	魚島の人口減少対策について	魚島は移住促進やインターネット発信などをやってきたが、 <u>人口減少を食い止められない</u> 。島を少しでも明るくしようと、イルミネーションや納涼大会など、 <u>単発的なものを魚島単位で行っているが、外から人を呼び込むことや外に発信することがうまくいかず、悩んでいる</u> 。人口を増やしたり、今のままで維持できるような知恵がないか。	今治支局職員が上島町を訪問し、 <u>魚島で実施されるイベント等について、同町CATVで、ドローン等の広報ツールによる取材や、CATVネットワークシステム(CATV同士の映像の相互放映)を通じた広域情報発信等の検討を依頼した</u> 。また、魚島を訪問し、改めて提言者等に聞き取りを実施した際、 <u>イベント運営に関する人的支援を望む声があったことから、「元気な集落づくりマッチング事業」の活用を働き掛け、企業の応援団約20名とともに、イルミネーション実施会場の清掃等を実施した</u> 。 【東予地方局】
	中予地方局 (砥部町)	道前・道後住民によるイベント交流について	我々の地域は高縄山山系と石鎚山山系のちょうど谷間にあたり、東予・中予を結ぶサイクリングロードをそこにつくったらどうかという意見も出ている。 <u>道前の文化と道後の文化とはちょっと違うものがあるが、これを融合させるということが今後愛媛県にとって非常に大事になってくる</u> 。西条の分水の問題にしても道前・道後が一緒にならないとなかなか難しい。 <u>道前・道後を通じたイベントなどをやってみてはどうか</u> 。	28年8月に、道前側(西条市丹原町中川)、道後側(東温市川内町奥松瀬川)両地区の公民館長など、住民代表者による交流に向けた顔合わせ会を実施した結果、次のような交流が芽生え始めた。 ①道前側住民の仲立ちによる、道後側住民のサイクリング先進地視察(シクロツーリズムしまなみ) ②「自然再生観察」をテーマに大三島住民グループとの交流。 ③道前側住民を講師に「自然再生観察や地域再生」をテーマとした、道後側住民対象のワークショップの実施 【中予地方局】
	南予地方局 (松野町)	河川道路の舗装について	道が大雨などで洗掘され、石が出てデコボコでトラクターや田植え機が通りにくくなっているため、地区のほうで農道に関しては町と相談しながら全部舗装をした。しかし、 <u>河川法により舗装してはいけない道路については危険な状態の部分もあるため、何とかしていただきたい</u> 。	現場を確認のうえ、河川管理道の舗装について鬼北町と協議したところ、 <u>同町が農道として舗装することで、平成31年度に予算要求を行う方針となった</u> 。 【南予地方局】
	南予地方局 (松野町)	障がい者が楽しめる施策について	九島大橋開通式の前日に、 <u>視覚障がい者と車いすの方を中心にタンDEM自転車に乗って九島大橋を渡ろうという活動があり、閉会式では参加者が涙ながらに挨拶するほど感動していた</u> 。活動は、 <u>民間の方たちが中心であるが、そうした活動を個人で頑張っている方たちへのバックアップを行い、障がいを持った方が大人になっても日々楽しむ生活が送れるようになればいい</u> 。	<u>視覚障がいや知的障がい等の障がいのある方と健常者がタンDEM自転車に同乗し、しまなみ海道でサイクリング体験を行う事業を検討している</u> 。また、それに先立ち、 <u>障がい者スポーツのサポーターを対象としたパイロット研修会を開催を検討している</u> 。パイロット登録者が確保されれば、イベントへの積極的な参加、協力が可能になると期待している。 【保健福祉部】